

## 週報①

### 広島市医師会臨床検査センター受託分 感染性胃腸炎検出状況(腸管病原菌含)

検出菌 ウイルス	2021年												2022年													
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月 ~3日	4月 ~10日	4月 ~17日	4月 ~24日	5月 ~1日	5月 ~8日	5月 ~15日	5月 ~22日	5月 ~29日	6月 ~5日	6月 ~12日
カンピロバクター	114	65	137	114	169	115	122	85	45	63	84	78	76	34	43	17	19	18	15	6	10	23	10	15	14	10
病原性大腸菌	39	25	52	61	55	64	63	45	42	102	62	44	29	41	37	9	23	16	14	20	7	20	14	27	24	19
腸管出血性大腸菌	1	0	0	0	1	2	3	2	0	3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0
サルモネラ	6	5	3	1	5	8	10	23	9	25	7	4	4	3	7	1	2	1	1	3	0	0	1	1	2	0
黄色ブドウ球菌 MSSA	14	16	33	19	39	25	17	15	20	26	21	12	35	12	25	1	8	7	4	4	5	6	6	11	4	2
黄色ブドウ球菌 MRSA	10	10	15	25	31	13	14	19	10	18	8	18	19	10	9	5	2	3	9	7	6	5	6	4	3	2
腸炎ビブリオ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
その他	0	2	1	3	4	4	0	4	5	3	3	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
ロタウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アデノウイルス	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	
ノロウイルス	4	5	6	11	13	9	0	0	0	0	0	2	4	0	7	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0

## 週報②

### 広島県感染症・疾病管理センター(ひろしまCDC) 感染症週報

令和4年第23週(6月6日~6月12日)

#### 2 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況

類別	報告数	疾患名	計	西部	西部東	東部	北部	広島市	呉市	福山市
一類	0	発生なし	0							
二類	9	結核	9	2	1		1	2	1	2
三類	4	腸管出血性大腸菌感染症	4					4		
四類	4	E型肝炎	1							1
		マラリア	1					1		
		レジオネラ症	2			1		1		
五類	11	ウイルス性肝炎	1					1		
		後天性免疫不全症候群	1							1
		侵襲性肺炎球菌感染症	1				1			
		バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1						1	
		梅毒	7					5		2
新型インフルエンザ等感染症	3,056	新型コロナウイルス感染症	3,056	295	278	167	16	1,736	207	357

注) 西部…大竹市、廿日市市、府中市、海田町、熊野町、坂町、安芸高田市、安芸太田町、北広島町、江田島市  
西部東…竹原市、東広島市、大崎上島町  
東部…三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町  
北部…三次市、庄原市

● 詳しい流行状況は、広島県感染症・疾病管理センターのホームページをご覧ください。 <http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/hcdc/>

1 新型コロナウイルス感染症

第23週に1,736件の報告がありました。新規感染者数は減少傾向ですが、依然として高い水準です。気温が上昇する夏場や梅雨の時期になると、屋内での活動が増えてきます。3密を避け、エアコンを使用していても「換気の悪い密閉空間」にならないよう、こまめに換気をするなど感染対策を徹底しましょう。

2 腸管出血性大腸菌感染症

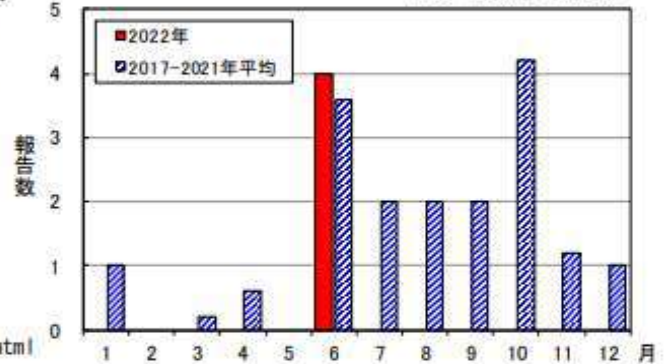
第23週に4件の報告がありました。腸管出血性大腸菌は、菌に汚染された飲食物の摂取や、患者の便に含まれる菌が手指等を介して口に入ることで感染します。

症状は、全くないものから、激しい腹痛、血便や重篤な合併症を起こすものまで様々です。

例年、気温が高い初夏から秋にかけて感染者が多くなる傾向があります。肉類は十分に加熱し、生で食べる野菜や調理器具はよく洗いましょう。また、調理や食事の前、トイレの後、排泄物の処理をした後などは、せっけんと流水で十分に手を洗いましょう。

【参考】腸管出血性大腸菌Q&A (厚生労働省)  
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000177609.html>

腸管出血性大腸菌感染症の月別報告数(広島市)  
 (2022年6月12日現在)



■定点把握感染症報告状況(週報対象)

定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号	定点種別	疾患名	報告数	定点当たり	平均(注)	過去5年間	発生記号
フィリン	インフルエンザ	-	-	0.02			小児科	流行性耳下腺炎	-	-	0.15		
小児科	咽頭結膜熱	7	0.29	0.62			眼科	RSウイルス感染症	7	0.29	0.47		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	12	0.50	2.00				急性出血性結膜炎	-	-	0.08		
	感染性胃腸炎	159	6.63	5.77	⇒		流行性角結膜炎	3	0.38	0.98			
	水痘	2	0.08	0.21			基幹	細菌性髄膜炎	-	-	-		
	手足口病	4	0.17	2.08				無菌性髄膜炎	-	-	-		
	伝染性紅斑	-	-	0.09				マイコプラズマ肺炎	-	-	0.03		
	突発性発しん	6	0.25	0.38				クラミジア肺炎(オウム病を除く)	-	-	-		
	ヘルパンギーナ	2	0.08	0.63			感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-			

急増減	↑	↓	前週と比較しておおむね1:2以上の増減
増減	↗	↘	前週と比較しておおむね1:1.5~2の増減
微増減	↔	↔	前週と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減
横ばい	⇔		ほとんど増減なし

報告数が少数の場合などは、発生記号を記載していません。

インフルエンザ定点数(小児科定点を含む)	37
小児科定点数	24
眼科定点数	8
基幹定点数	7

(注) 過去5年間の同時期平均(定点当たり)

■全数把握感染症報告状況(新型コロナウイルス感染症を除く)

類型	疾患名	報告数	累計	備考
2	結核	2	43	20歳代・推定感染地域: 国外、70歳代
3	腸管出血性大腸菌感染症	4	4	10歳未満・O26・2人、10歳代・O26・2人
4	マラリア	1	1	20歳代・市外・推定感染地域: 国外
4	レジオネラ症	1	14	50歳代
5	ウイルス性肝炎	1	2	60歳代
5	梅毒	5	131	30歳代・3人、40歳代・1人、70歳代・1人